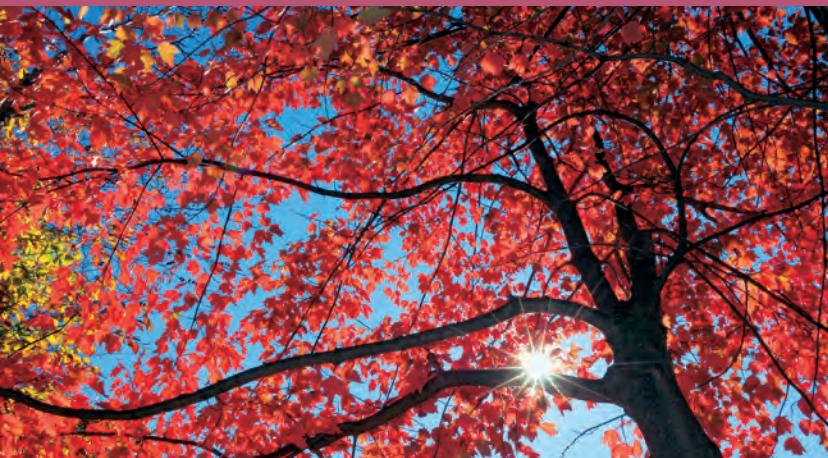


第133期(第2四半期)

株主通信

2012年4月1日～2012年9月30日



CONTENTS

- 1 株主の皆さまへ
- 2 業績の概況
- 3 Kyodoトピックス
 - チューブ事業を拡大
 - 情報の電子化へ向けた取り組み
- 5 営業の概況
- 9 第2四半期 連結財務諸表の概要
- 10 業績の推移(連結)
- 11 株式の状況
- 13 共同印刷グループネットワーク

株主の皆さまへ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
当第2四半期(累計)の事業概況をご報告申し上げます。

近年、情報伝達の手段はデジタル媒体への移行が急速に進み、印刷需要は減り続けております。さらに、デフレ経済の長期化や世界的な景気の減速などの影響により企業のコスト意識は一層高まり、印刷業界は大変厳しい経営環境におかれましては。こうしたなか、共同印刷グループは、独自技術による新たな製品の開発や、印刷とITの融合による新サービスの拡販に努め、事業領域の拡大に取り組みました。しかしながら、当第2四半期連結累計期間における業績につきましては、売上高、利益ともに前年同期を下回りました。

今後も印刷業界の厳しい状況は続くと思われませんが、当グループは持てる力を最大限に発揮し、積極的な営業活動によって受注を拡大するとともに、コストダウン活動を継続することで業績向上を図ります。

生活・産業資材部門では、高付加価値製品の開発に注力し、国内だけでなく海外にも販路を広げてまいります。また、出版商印部門、ビジネスメディア部門では、印刷に関連したサービスのメニューを拡充し、幅広いお客さまにソリューションを提供してまいります。

当グループは、これらの製品・サービスを提供し、お客さまの評価を得ることで事業領域拡大を進め、収益を拡大することにより企業価値の向上を実現いたします。株主の皆さまにおかれましては一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2012年12月

代表取締役社長 稲本 歳明



業績の概況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、復興需要を背景に緩やかな回復がみられたものの、世界的な景気減速の影響や、円高およびデフレ経済の長期化など、依然として先行き不透明な状況が続きました。印刷業界におきましては、紙媒体から電子媒体への移行や企業のコスト削減による印刷需要の縮小が続き、厳しい経営環境となりました。

このような状況のなか、共同印刷グループは中期経営方針「事業領域の拡大により売上拡大を実現する」に基づき、技術的な強みを生かした高機能製品の拡販や、印刷分野と情報技術分野の融合による新サービス拡充を図りました。また、販促支援サービスや業務支援サービスなどの周辺分野での受託拡大をめざすことで、事業領域拡大に取り組みました。

しかしながら当第2四半期連結累計期間における業績は、売上高は453億7千4百万円（前年同期比2.6%減）となり、営業利益は3億5千4百万円（前年同期比44.7%減）、経常利益は7億4千7百万円（前年同期比30.6%減）、四半期純損失は5千1百万円（前年同期は四半期純利益4億7千8百万円）となりました。

単位：百万円

連結	前第2四半期累計 2011年4月1日から 2011年9月30日まで	当第2四半期累計 2012年4月1日から 2012年9月30日まで	増減率
売上高	46,607	45,374	▲2.6%
営業利益	641	354	▲44.7%
経常利益	1,076	747	▲30.6%
四半期純利益(損失)	478	▲51	—
一株当たりの中間配当金	4円	4円	—

※年間では8円の配当を予定しています。

Kyodoトピックス

生活・産業資材系事業

チューブ事業を拡大 日本ゼトック株式会社との関係を強化 相模原市に土地購入

本年9月、当社取引先であり、化粧品や医薬部外品などの製造販売を主な事業とする日本ゼトックの相模原事業所隣接地（神奈川県）の用地取得に関する契約をトヨタ自動車東日本株式会社と締結しました。日本ゼトックも新たに用地を取得、両社の取得用地に、チューブの製造と充填・包装とを一体化させた工場および付随施設を2013年度中に建設し、共同生産体制を実現します。

共同印刷グループのチューブ事業は歯磨き用チューブを中心に順調に伸長しています。このたびの投資により、チューブ製造の生産能力アップと、事業パートナー体制の強化を図り、両社技術の融合によってチューブ事業をさらに拡大させ、お客さまの多様な要望にお応えしていきます。



当社開発のフルプリントラミネートチューブ。従来は不可能だった継ぎ目への印刷を実現

概要

所在地	: 神奈川県相模原市緑区大山町4-12
概略	: 日本ゼトック相模原事業所南側隣接地 (トヨタ自動車東日本の敷地)
購入敷地面積	: 約2,000坪
設備投資額	: 12億円(工場建設費用含む)
売上目標(チューブ事業全体)	: 3年後(2016年度)に85億円
契約日	: 2012年9月28日
主な事業内容	: ラミネートチューブ容器の製造

情報系事業

情報の電子化へ向けた取り組み 次世代デバイス向け統合型サービス

情報の電子化が加速するとともに、スマートフォンやタブレットなど、さまざまなデジタルデバイスが普及してきました。

現在、当グループでは、紙媒体などの従来型メディアに加え、動画再生などの各種機能を付加した次世代型タブレット向けのアプリケーションを開発、新サービスとしてご提供しています。

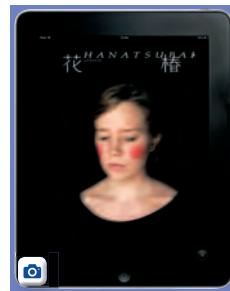
デジタルデバイス向けアプリ変換・制作サービス マルチネクスト 「MultiNext™」

情報誌やカタログなどの印刷用データを、スマートフォンやタブレット向けコンテンツとして変換・制作するサービスです。

コンテンツビューアー機能をベースに、動画再生、SNSシェア、Webリンクなどスマートフォンやタブレットならではの機能を組み込みました。さまざまなアプリ制作に活用できるだけでなく、iOS、Android双方に対応しているため、OSごとに別々のコンテンツを制作する必要がなく、全体の制作コストも抑えられます。

こうした機能が評価され、株式会社資生堂さまが店頭などで配布する企業文化誌「花椿」のデジタル版「花椿 for iPhone/iPad/Android」にご採用いただきました。

※ iPhone、iPadはApple Inc.の、AndroidはGoogle Inc.の商標または登録商標です。



資生堂さま 企業文化誌
「花椿 for iPhone/iPad/
Android」

学びの電子書店「自己ガク」 学習機能を高めたハイブリッドビューアー開発



当社は、学びがテーマの電子書店「自己ガク」を中心に、読者の学習体験をより豊かにするソリューションを提供しています。本年7月、電子書籍と動画コンテンツを同時に再生するハイブリッドビューアー「BookStage NEXT」を発表し、12月中旬にiPad版のサービス開始をめざしています。

電子書籍と動画・音声とをあわせて再生できるため、テキストだけでは理解が難しい内容を動画でわかりやすく解説できます。教材や料理本、手芸本、あるいは取扱説明書など、さまざまな利用シーンが想定されます。出版社や教育事業者は、お持ちの動画・映像コンテンツを有効に活用できます。

今後も電子書籍を活用した新しい学びのスタイルをご提案していきます。

撮影ニーズの多様化へ、 スチル(写真)・動画一括撮影サービス

Webサイトなどでの動画閲覧機能の向上と普及にあわせ、紙媒体であるカタログ冊子との相乗効果をねらった動画撮影のご要望が増えており、当社播磨坂スタジオでは、こうした声にお応えしています。

播磨坂スタジオは、本社(東京都文京区)に隣接する撮影専用のスタジオで、電動ライティングバンクライトを完備した大型スタジオや、自然光撮影や建込撮影が可能な多目的スタジオ、キッチンスタジオなど、多様なニーズにお応えする最新鋭設備を備えています。商品の訴求力を高める動画を、スチル撮影の

スケジュールにあわせて、効率よく撮影・編集します。

動画撮影は、カタログに掲載する商品とWebサイトとの連動で販売促進を図りたい通販会社などにご活用いただいています。



スマートフォンで、写真から、動画やWebサイトへ簡単にアクセス

画像認識アプリ

はとりしあ

写真・イラスト画像をそのまま認識対象にできる、当社独自開発のスマートフォン向けの画像認識技術です。その機能を実感いただける無料アプリをご用意しました。ぜひお試しください。



ご利用方法

STEP 1

App Store、Google Playから、「はとりしあ」をダウンロード

はとりしあ

検索

STEP 2

アプリを起動し、本ページ(p3-4)の  が付いた写真やマークを撮影

STEP 3

「コンテンツにアクセスします」と表示されたら「OK」をタップ。自動でWebサイトへ移動し、閲覧できます。

※ App StoreはApple Inc.のサービスマークです。Google PlayはGoogle Inc.の商標または登録商標です。

「はとりしあ®モジュール ネットワーク版サービス」の提供開始

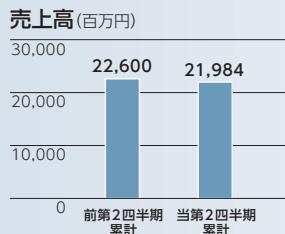
本年9月、スマートフォン用のアプリ開発に、はとりしあの画像認識機能を簡単、自由に活用できるサービスを開始しました。画像認識リクエストに応じた従量課金制(1件3円)で、初期導入費や固定費が不要です。印刷物とスマートフォンとの連携が手軽に実現できます。

詳細は、「はとりしあ®」サイトをご覧ください。<http://www.kyodoprinting.co.jp/patricia/>

営業の概況

出版商印部門

- 定期刊行物
- 書籍
- 一般商業印刷
- 電子書籍など



連結売上高 219億8千4百万円
(前年同期比2.7%減)

営業損失 △1億8千8百万円
(前年同期は営業利益5千4百万円)

出版印刷では、電子書店「自己ガク」の充実を図るとともに、販促を含めた提案を行って受注拡大に努めた結果、書籍、定期刊行物ともに増加し、売上高は前年同期を上回りました。

一般商業印刷では、お客さまの販促

支援に関わるソリューションメニューの提案を推進した結果、在庫管理業務やパンフレット類は増加しましたが、情報誌やPOPが減少したため、売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、部門全体の売上高は前年同期を下回りました。

今後、出版印刷においては、まんがの受注拡大をめざして、まんがフルデジタル制作システム「Comic Packer®」を活用

したコンテンツのデジタル化サービスを強化するとともに、拡大する電子書籍市場への対応として、電子書店「自己ガク」や電子コミック販売サイト「ソク読み」のさらなる充実を図ります。

一般商業印刷においては、紙媒体とデジタル媒体を融合させたクロスメディア提案によって、Web・モバイルコンテンツ作成やキャンペーン事務局運営といった販促関連領域での受注拡大に取り組みます。またコールセンター機能、ロジスティクス機能を強化し、お客さまの販促活動をトータルで支援するパートナーとなることをめざします。



出版印刷



一般商業印刷(カタログ・情報誌など)

TOPICS 株式会社玄光社さま「mizutamaさんのイラストレスン」発売記念ワークショップを開催

2012年6月、著書も多い有名消しゴムはんこ作家mizutamaさんの新刊『mizutamaさんのイラストレスン』発売を記念するワークショップ「かわいい消しゴムはんこでカードをつくらう」を、当社播磨坂スタジオで開催しました。

著者自らが講師を務めるとあって、2日間で約100名の方にご参加いただき、大盛況となりました。

『mizutamaさんのイラストレスン』は、当社が編集企画を提案し、印刷から当社が運営する電子書店「自己ガク」での電子書籍販売までを受注したものです。今後もこうした取り組みを進めて出版社との関係を強化するとともに、書籍や電子書籍コンテンツと連動したイベントの企画・運営サービスにも積極的に挑戦し、出版社と読者をつなぐコミュニケーションの一翼を担っていきます。



当社が企画・主催したワークショップ

ビジネスメディア部門

- ビジネスフォーム
- データプリント
- BPO*業務
- 通帳・証券類
- 各種カードなど



連結売上高 132億8千1百万円
(前年同期比4.3%減)

営業利益 3億2千2百万円
(前年同期比15.4%減)

ビジネスメディア部門では、官公庁や金融機関を中心にデータプリントやBPOの受注拡大に取り組んだ結果、ビジネスフォームは増加しましたが、通帳などの証券類やICカードは減少しました。

以上の結果、部門全体の売上高は前年同期を下回りました。

現在、官公庁や金融業界をはじめとするさまざまな分野でアウトソーシングの需要が拡大しています。そのような状況のなか、当部門ではこれまで培ってきた

データプリント業務のノウハウを核に、データプリントおよび周辺業務を一括受注するBPOの受注拡大に取り組んでいます。お客さまの顧客サービス向上や業務効率向上に役立つ提案を積極的に行って受注拡大を図るとともに、システム化による作業効率向上に努めます。また、証券類やICカードでは、新市場の開拓に取り組むとともに、生産ラインの合理化を図っていきます。



ビジネスフォームなど



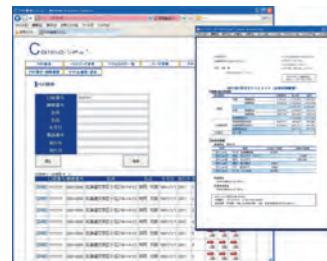
証券類

TOPICS コールセンター業務を効率化、「Commo-View®」サービス開始

2012年4月、お客さまの手に届いた帳票(個人情報が入力された保険通知書などの通知文書)と同じイメージ画像をコールセンターの画面上で照会し、素早く・正確な対応を可能にしたシステム、「Commo-View®」の提供を開始しました。イメージ画像のデータ容量を従来の1/2~1/10と低容量化したほか、汎用システムとして開発したことで、コールセンターにおけるシステム導入の初期費用を低減化しました。

今後も、こうした新システムやサービスの開発に取り組み、BPO*サービス事業のさらなる拡大を図ります。

*Business Process Outsourcing の略。お客さまの負担となっている業務を請け負う事業のこと。



Commo-View®の画面イメージ

生活・産業資材部門

- 紙器
- 軟包装
- チューブ
- 建材
- 金属印刷
- 高機能材料など



連結売上高 **94億1千2百万円**
(前年同期比1.0%減)

営業利益 **3億8千4百万円**
(前年同期比27.0%増)

生活・産業資材部門では、医薬品分野や電子部品分野において高機能製品の提案を行うとともに、カップ麺の湯切り機能フタ材やオーバルラミネートチューブなど、当社開発製品の受注拡大に取り組みました。

高機能製品の受注が拡大したため産業資材は増加しましたが、建材製品が減少し、紙器、軟包装、チューブも減少したため、部門全体での売上高は前年同期を下回りました。

当部門では既存分野でのシェア拡大と産業資材の拡販に取り組んでいます。既存分野では、主要製品である歯磨き用チューブの拡大をめざし、生産体制の強化に努めます。また化粧品向けチューブの

拡大をめざし、美麗性に優れたオーバルラミネートチューブの提案を推進します。その他、非金属刃ラップカートンや湯切り機能フタ材「パーシャルオープン」、業務用包材「セパシート」などの当社開発製品の拡販に努めていきます。

産業資材分野では、「モイストキャッチ®」「オキシキャッチ®」等の高機能製品に対する開発投資を進め、医薬品分野や電子部品分野を中心とした新規得意先への拡販に努めていきます。



紙器・軟包装・チューブ・金属印刷など



湿気やアウトガスを除去する吸湿・吸着機能材料「モイストキャッチ®」

TOPICS 業界初、医薬品向け分割充填可能なチャック付パウチ「**DUPLEX ONE®**」

2012年6月、一つの袋で薬剤と説明書を分割充填できる、医薬品専用のチャック付スタンディングパウチ「**DUPLEX ONE®**」をミヤコ化学株式会社と共同開発しました。プラスチックやガラスボトルと紙箱とを併用した従来型の医薬品向け容器と比べて、内容物を充填する前の容器体積を90%削減、充填後の保管スペースおよび出荷時体積を50%以上削減(いずれも当社比)した、画期的な環境配慮型製品です。

6月末に開催された「第25回インターフェックスジャパン」など医薬品分野の展示会に出品、現在、拡販に努めています。なお、本品の製造は、当社守谷工場の医薬・産業資材棟に導入した専用設備で行っています。



医薬品向け分割充填可能なチャック付パウチ「**DUPLEX ONE®**」

*Duplex One™ is a trademark of Kyodo Printing Co., Ltd. registered in Japan

その他

- 物流業務
- 不動産管理など



連結売上高 **6億9千5百万円**
(前年同期比12.3%増)

営業利益 **1億3千4百万円**
(前年同期比44.9%減)

連結子会社における物流業務、保険取扱業務、不動産管理業務が主たる業務です。

物流業務が増加したため、部門全体の売上高は前年同期を上回りました。



共同物流株式会社 越生保管センター
大量格納の電動式移動ラック

TOPICS 受賞報告

当社が製造に携わった製品が、各コンクールで賞を受けました

国内で刊行された本から、印刷・製本・加工技術に優れた製品を評する
第46回 造本装幀コンクール

●審査員奨励賞

株式会社 講談社「おやすみなさい。良い夢を。」

●日本印刷産業連合会会長賞

株式会社 まんだらけ「渋皮栗 片山若子画集」

●読書推進運動協議会賞

株式会社 ポプラ社「クマのあたりまえ」

プロモーションツールの代表選手「POP広告」の
日本最大・唯一のコンテスト

**第42回 日本プロモーション・マーケティング協会展
(2012・42nd JPM Creative Design Show)**

●化粧品部門

株式会社 コーセー

「コスメデコルテ秋前専門店演出ツール プリムラテ」



第2四半期 連結財務諸表の概要

単位:百万円
(注)記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しています。

前期…2011年4月1日から2012年3月31日まで 前第2四半期…2011年4月1日から2011年9月30日まで 当第2四半期…2012年4月1日から2012年9月30日まで

●連結貸借対照表

	前期末	当第2四半期末
資産の部		
流動資産	47,100	46,473
固定資産	48,046	47,147
有形固定資産	37,695	37,468
無形固定資産	979	916
投資その他の資産	9,372	8,762
資産合計	95,146	93,621
負債の部		
流動負債	28,664	28,560
固定負債	18,158	17,160
負債合計	46,822	45,721
純資産の部		
株主資本	47,680	47,268
資本金	4,510	4,510
資本剰余金	1,742	1,742
利益剰余金	41,472	41,060
自己株式	△44	△44
その他の包括利益累計額	644	631
その他有価証券評価差額金	779	632
為替換算調整勘定	△135	△0
純資産合計	48,324	47,899
負債純資産合計	95,146	93,621

●連結キャッシュ・フロー計算書

	前第2四半期	当第2四半期
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,667	3,774
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,531	△1,091
財務活動によるキャッシュ・フロー	△583	△1,811
現金及び現金同等物に係る換算差額	15	13
現金及び現金同等物の増減額	1,568	884
現金及び現金同等物の期首残高	12,256	11,851
現金及び現金同等物の四半期末残高	13,824	12,735

●連結損益計算書

	前第2四半期	当第2四半期
売上高	46,607	45,374
売上原価	39,411	38,495
売上総利益	7,196	6,879
販売費及び一般管理費	6,554	6,524
営業利益	641	354
営業外収益	639	571
営業外費用	203	178
経常利益	1,076	747
特別利益	1	2
特別損失	199	645
税金等調整前四半期純利益	879	104
法人税等合計	400	155
少数株主損益調整前四半期純利益又は損失(△)	478	△51
四半期純利益又は損失(△)	478	△51

●連結包括利益計算書

	前第2四半期	当第2四半期
少数株主損益調整前四半期純利益又は損失(△)	478	△51
その他の包括利益	△252	△12
その他有価証券評価差額金	△267	△147
為替換算調整勘定	13	134
持分法適用会社に対する持分相当額	0	0
四半期包括利益	225	△64

業績の推移 (連結)

売上高

(億円)



営業利益

(億円)



経常利益

(億円)



当期純利益

(億円)



株式の状況 (2012年9月30日現在)

● 株価および売買高の推移 (東京証券取引所)

株価の推移

(終値ベースの高低)



売買高の推移



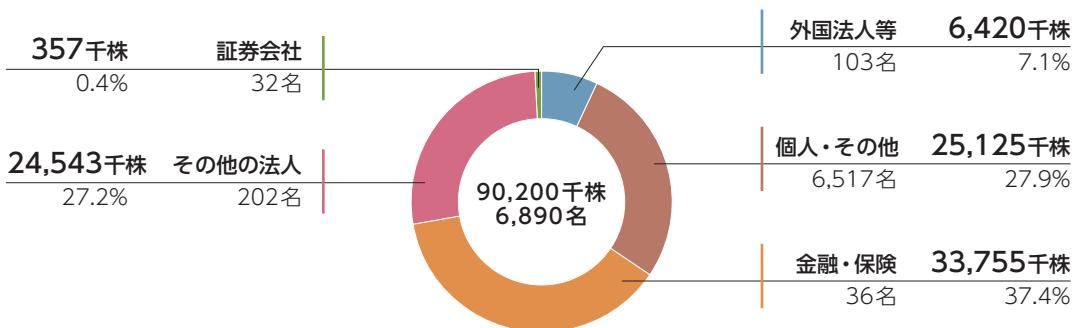
● 大株主の状況

氏名または名称	所有株式数(千株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社	13,092	14.52
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・DIC株式会社口)	8,541	9.47
東京インキ株式会社	5,830	6.46
株式会社みずほ銀行	2,831	3.14
朝日生命保険相互会社	2,500	2.77
東洋インキSCホールディングス株式会社	2,169	2.41
共同印刷従業員持株会	1,825	2.02
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO (常任代理人 シティバンク銀行株式会社)	1,820	2.02
日本マスタートラスト信託銀行株式会社	1,807	2.00
三井住友信託銀行株式会社	1,482	1.64
計	41,898	46.45

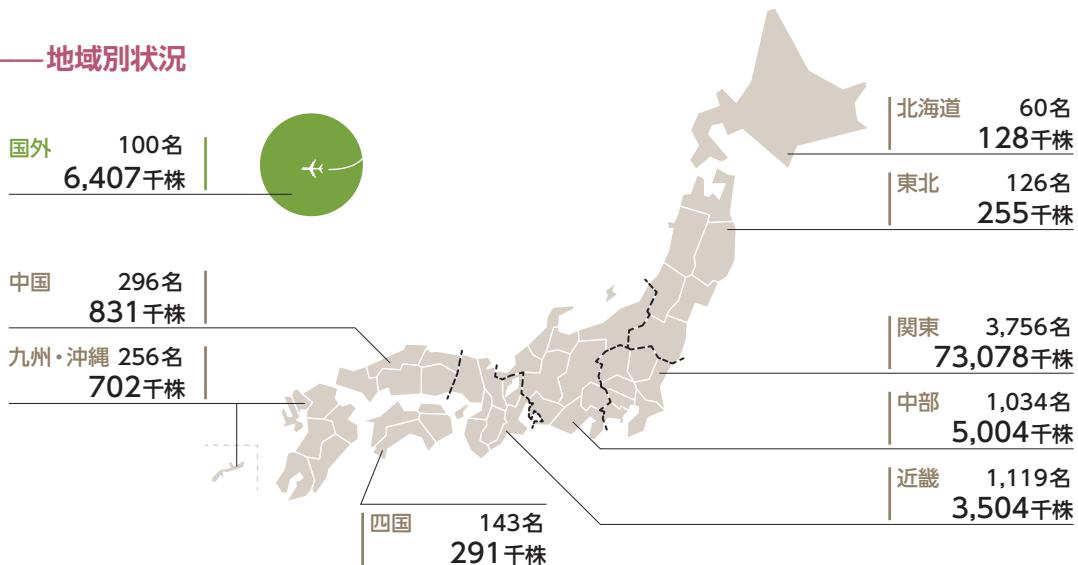
●株式の状況

発行可能株式総数	360,800,000株
発行済株式総数	90,200,000株
単元株式数	1,000株
株主数	6,890名

●株式分布状況——所有者別状況(株式数比率)



●株式分布状況——地域別状況



共同印刷グループネットワーク

会社商号	共同印刷株式会社 (Kyodo Printing Co., Ltd.)
創業年月日	1897(明治30)年 6 月25日
設立年月日	1925(大正14)年12月26日
資本金	45億1千万円
本社	〒112-8501 東京都文京区小石川4-14-12 Tel. 03-3817-2071 (CSR本部コーポレートコミュニケーション部)
社員数 (臨時員含まず)	連結 2,692名、単体 1,861名(2012年9月30日現在)

●役員紹介 (2012年10月31日現在)

取締役

代表取締役社長	稲木 歳明	経営管理本部担当
専務取締役	赤坂 洋輔	グループ事業統轄、出版商印事業本部長、施設環境部担当
専務取締役	藤森 康彰	技術統括本部・IT統括本部・IC事業推進本部・法務部・経理部担当
常務取締役	三吉 幹夫	グループ生産統轄、ビジネスメディア事業部・交通媒体事業部担当
常務取締役	小笠原 誠	CSR本部長、監査部・資材部・人事部担当
常務取締役	清水 市司	L&I事業部担当
取締役	半田 正章	交通媒体事業部長
取締役	井戸 一喜	経営管理本部長
取締役	大澤 春雄	SP&ソリューション事業部長
取締役	大久保隆司	ビジネスメディア事業部長
取締役	齋藤 文孝	技術統括本部長
取締役	今村 敏夫	IT統括本部長
取締役	人見 実	出版情報事業部長
取締役	梶山 正義	プロモーションメディア事業部長
取締役	渡邊 秀典	経理部長、法務部長
取締役	里村 憲治	L&I事業部長

監査役

常勤監査役	谷 公明	
常勤監査役	朝比奈治美	
社外監査役	小澤 優一	弁護士
社外監査役	公文 敬	

●製造工場およびグループ会社

出版商印部門

小石川工場
五霞工場
越谷工場(共同オフセット株式会社)
苫小牧工場(株式会社コスモグラフィック)
小石川プロセス株式会社
共同印刷製本株式会社

ビジネスメディア部門

鶴ヶ島工場
川島工場
京都工場(共同印刷西日本株式会社)

生活・産業資材部門

小田原工場
和歌山工場
守谷工場
磯原工場(常磐共同印刷株式会社)
共印商貿(上海)有限公司

その他

共同物流株式会社
共同総業株式会社
共同印刷ビジネスソリューションズ株式会社
株式会社日本書籍新社

(関連会社)
共同製本株式会社
デジタルカタパルト株式会社

株式のご案内

決算期 3月31日
定時株主総会 毎年6月
株主確定基準日 定時株主総会・期末配当金 3月31日
中間配当金 9月30日
その他必要あるときは予め公告する日
公告方法 電子公告
ただし電子公告による公告ができない場合は、
日本経済新聞に掲載して行います。
公告およびIR情報などを掲載するWebサイトアドレス
<http://www.kyodoprinting.co.jp/>

上場証券取引所 東京証券取引所
株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話照会先 電話0120-782-031(フリーダイヤル)
取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各
支店で行っています。

お知らせ 住所変更、単元未満株式の買取・買増などのお申し出先について

株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。

なお、証券会社に口座がないため特別口座が開設されました株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

未払配当金の支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

「配当金計算書」について

配当金お支払いの際にご送付しています「配当金計算書」は、租税特別措置法の規定に基づく「支払通知書」を兼ねています。確定申告を行う際は、その添付資料としてご使用いただくことができます。

なお、配当金領収証にて配当金をお受け取りの株主さまにつきましても、配当金のお支払いの都度「配当金計算書」を同封させていただいています。確定申告をされる株主さまは大切に保管ください。

以上